# ロブストス高垣の 今日も一丁あがり♪

第27話

## 最小限のコストでクレームを解消する〝ロブストス流鶴の恩返し〟！の巻

皆さん、こんにちは！　冬の寒風が奥歯にしみるロブストス高垣でございます。少年時代にグミを食べ過ぎたせいで歯が弱ってきました。話は変わりますが、懇意にしてくれていたメーカー系ディーラーの営業担当者が退職してしまうんですよ。農家からの信頼は厚く、現場からの特注の依頼にも一緒に挑戦するなかで、連携がスムーズになっていたからこそ、悔しくて……。でも、理由を尋ねると、いまの仕事が嫌いなわけじゃないのだけど、とのこと。別の農機ディーラーでも、去年だけで若手が10名以上も退職しているそうです。地域によって働く環境に違いはあるのでしょうけれど、農機の提案に加えて特注対応や自動化、アプリまで幅広く知見が求められ、さらに重要度が増す仕事だと思うんです。現場のモチベーションをどう育てていくかは、農業界全体で考えるべき課題ではないでしょうか。ということで、今月は群馬県のやる気みなぎる農機具販売店からの相談を♪



写真１：圃場で稼働中の自走式キャベツ収穫機。１人が操縦して、３人が調製作業を行なう



写真２：搬送部に外葉が詰まると、機械を止めなくてはならず、４人の仕事がストップしてしまう

### 農家の要望を〝超える〟モノ

聞けば、「自走式キャベツ収穫機の作業中に外葉が詰まっては止まって、効率が上がらない」という不満がアチコチで出ているとのこと。この収穫機のメーカーは、以前、別件で仕事をした際に、とても親切に手助けしてくれたんです。それ以来感謝しているので、この不具合を解決してクレームが収まるなら、いまこそ恩を返す時！と腕が鳴りました。

現場に立ち合った農家さんの要望は「押切刃を回転刃に改造できないか」というもの。これは簡単ではなく、現実的な手段ではありませんでした。実際に作業を見せてもらうと、「外葉が詰まったら、機械を止めて、機械から下りて、外葉を掻き出す」の繰り返し。そこで僕が考えたのは「外葉が詰まっても、機械を止めず、機械から降りず、内側から掻き出す」ために、操縦席から動かせるスクレーパーを設置すること。これなら最小限のコストで良い結果が得られるのではないか――。

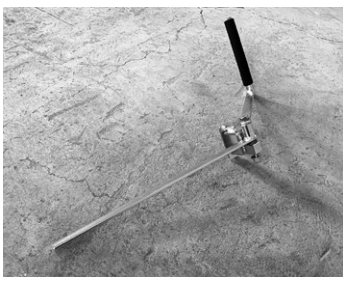


写真３：サクッと仕上げたスクレーパーは搬送部のフレームに組付け



写真４：機械から降りずに操縦席から除去できれば機械は止まらない。シンプルな部品を１つ取り付けただけで作業能率が３倍に！

ところが、試作品を現場に持っていくと、「これは求めてたものじゃない」という雰囲気に……。僕のテンションも超下がりましたが、すぐに電話がかかってきましたよ。「キャベツ６００kgの収穫に30分かかっていたのが10分で終わった。もう手離せない」と。やりました、これぞロブストス流鶴の恩返し！　作業のストレスをかなり改善できたようで、販売店も喜んでくれました。ロブストスと一緒なら農家の要求に応えられるかもしれないと農機販売の可能性を広げていくことで、現場のモチベーションに貢献できたら嬉しいですね。ということで！　今月も一丁あがり～～～♪



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。㈱ロブストス・代表取締役社長。